

展示品一覧

●三井家発祥地由来



三井家発祥地前の説明板より
(所在地：三重県松阪市本町)

松阪の生んだ大商人、三井家の家祖、三井高利は、1622年この地に生まれました。

高利は父祖伝来の士魂と母の商才を継承し幼少より刻苦勉励して当地第一流の商人となり、1673年に至って宿志を遂げるべく江戸に越後屋呉服店を開店し、以後、三井家は発展を続け、江戸、京都、大阪に呉服店、両替店を経営する我国商業史に残る大商人となりました。高利の定めた三井家の店章「丸に井桁三文字」は、現在も日本経済の発展に大きく寄与している三井系企業各社に受け継がれています。

当地は、1956年松阪市教育委員会により史跡に指定され、高利の祖父母、父母の五輪塔、高利「産湯の井」と伝承される井戸、高利十世孫三井高棟の筆になる記念碑等が存します。

●詔刀文写



安政6年(1859)
(個人蔵)

京都三井店元方の小森伊三次、松坂三井店の中村六兵衛を願主として、三井家の繁栄を祈願して、伊勢神宮で大御神樂が奉奏されました。これは、その時の詔刀(祝詞)を写したものです。

●秋海棠之画

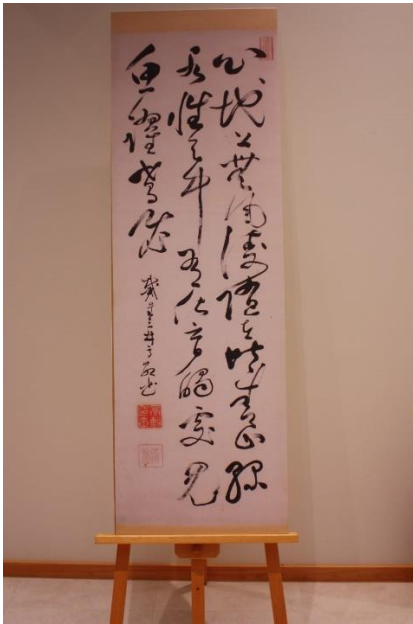


北家(総領家)6代三井高祐
(個人蔵)

高祐の画に三井南家4代高業(嘉栗)が、歌で讃を書いています。高業は、三井家の当主としてより、文学史上、狂歌師仙果亭嘉栗、浄瑠璃作家紀上太郎として名を知られています。

秋海棠は、中国からの帰化植物でベゴニアのことです。

●三井高敏漢詩



(個人蔵)

三井松阪家第七代当主「高敏」(戴星)の書です。

「菜根譚(さいこんたん)」は、約400年前に書かれた中国の古典で、各界の著名人が愛読しました。

書は、この中の後集66項の「どこにしようとも」で、「心に波風が無ければ、どこに居ても山々と緑なす木々に囲まれているようなもの。本性を教育できる術があれば、魚が飛び、鳶が大空を舞っているようなもの。心とは何としても扱い辛いし、教育し難いもの。言い換えれば達人はそれを超越して心を御す達人であることが望ましい。」と、人間関係における効能について説いています。

●永井家墓碑 拓本



(個人蔵)

永井家の菩提寺、西導寺(三重県多気町)にある殊法大姉墓碑で、大正 14 年(1925)に三井家により建てられました。

「丹生の永井浄観の娘殊法大姉は、慶長年間に松坂三井氏に嫁ぎました。大姉の 250 回忌に当たり、祭祀が途絶え、墓地が荒廃しているので、新たに遺碑を据えました。願わくは、花が絶えることなく、永く諸霊を弔わんことを。」とあります。

●永井家舊跡地石標 拓本



(個人蔵)

三井高利の母殊法の生地(現:多気町丹生)に三井家が昭和 7 年に建てた石標です。

石標には、「三井家の先祖、恵照院殿(三井高俊)の妻殊法大姉は、永井氏は丹生の名族です。しかし祭祀は絶えてしまいました。高俊の 300 回忌を行うにあたりその旧宅地跡にこの石標を建てる。」とあります。

永井家は、江戸時代以前より、水銀産出により、繁栄をしていた丹生の豪商でありました。

多気町丹生には、今でも殊法が三井家に嫁ぐ際、松坂のような田舎に行くのは嫌だと泣いたという逸話が残っています。

●殊法大姉行状

大正 14 年(1925)、殊法大姉 250 回忌法要に際し作成された、高利宛の殊法大姉筆跡、「家傳記」(長男高平著)、「商売記」(三男高治著)に載る殊法の系譜や事績等の抜粋からなる小冊子です。

豪商永井家出身の殊法は、夫高俊に代り三井家の商い一切を取り仕切り、高利の商いに大きな影響を与えました。「商売記」には、殊法の商い等の逸話が多く載り、後世まで「三井の商いの祖」と伝わっています。

(複製展示)

●三井難波店開店乃図



(継松寺蔵) (大阪歴史博物館寄託)

極彩色の細密な図で、すやり霞の諸所に金砂子を散らしています。

嘉永 2 年(1849)8 月に継松寺に奉納されたもので、「難波津三井店開之図清州^印」と墨書し、三井大阪本店の店開きの賑が克明に描かれ、縁には世話人 2 人、取次 3 人、施主 13 人が連署しています。

この店は現在の大阪府中央区高麗橋一丁目付近に、元禄 4 年(1691)に創業したもので、豪壮な呉服店の後ろには蔵が立ち並び、店の前には人々が群集しており、当時の繁昌ぶりを如実に描写しています。

(木造着色 縦 98 cm、横 116 cm、縁 22 cm)